

全部すてよいの

すき言つたに何 ずいど過ぎた と知方

をして来た

×イニの能手だつた毛髪のことほむあうん

ほきしえ 香水 全部すてた

おしやわの長や中下へんくろ服アウセサウー

うんだに 全部すてた

日記の処分をいしていゝお二十冊ぐらゐ 綴つた

紺をよこせつゝと 部あうくつんである

台階のカーテレの甲片 宝物 知

環案するの太なゆしみだ

どうしてこの跡存ものがあるのか

ほさりだうやの甲をさかしあひる

とつておくもの する物 ちの甲で

こんほいりや というものもある

竹巨あんだ かご林のもの

末をくりぬいた ぐれをいれらるゝ 詞履すい

審器は近くの子ノブルにふいた

その甲にクリーム コットニ 葉をのむ時の

せうい りん、 せんね ハラニかふたにたつて

い  
る

ペニヤ ベービー ナイフ などを入れておく

のた 木でできた ランゴウ 板の 容器もよく

宝飾品類 だるま

少いでも芸術の 香りの するもの を 持つため

いりまうに

それらは かくと 取る 布を インドの 物産品だ

かべは ほうりやう 2 おき 尺い

古い 日記 本が ハうく と なるに 花紙も あり

オレに じ色 木く かん 2 字 や 4 2 行

ほの花 だるま

日記の 内 帖 アールヌーヴ 牙 展の 山 陽 展だ

甲子年 二月一年 四月二十一日 と ながうて いる

運去も する 取う れるに 大 印 存 する がある

2021  
2/10